

目 次

第十一集の刊行にあたって

研究の概要

事 例

1. 在宅の一重度・重複障害児に対する母親との連携の経過

—主として「離乳」をめざした訪問指導—

北海道星置養護学校

佐々木 正 仁…………… 1

コメント…………… 9

2. 食べる量・ペースを自分で決めにくい子どもとの係わり合い

—自分で決めておいしく食べることをめざして—

横浜国立大学教育学部附属養護学校

星 野 勉……………13

コメント…………… 24

3. 視覚障害を伴う一重症心身障害児の行動の自己調整をめざした食事場面の活用

国立療養所神奈川病院

古 舘 亙……………27

コメント……………36

4. ‘自らの食事活動を自らが決めて動いていくこと’の生じにくかった人との

相互輔生の歩み

東北大学教育学部

神波 修 吉武清実

須藤昌彦 原子 健

南材ホーム

浦坂昌子……………40

コメント…………… 53

5. ある拒食・偏食の著しい盲重複障害児に摂食の広がりを促す指導の試み

国立久里浜養護学校

大 沼 直 樹……………56

コメント……………64

6. 盲をともなう一重度・重複障害児に対する食事場面を利用した行動拡大への

取りくみ

重複障害教育研究部

落 合 俊 郎……………69

討 論……………79

編集を終えて